

交野市立中学校2、3年生の皆さんへ



交野市の教育委員会で教育長という仕事をしている北田千秋といいます。今までの長い休み、そしてこれからについて、書いていますので、読んでください。

2年生の皆さんは、入学から1年経ち、学校にも慣れ、さあ次は2年生になって、と思っていたのに、3月から長い休みが始まりました。勉強も部活動も今から、いよいよ後輩も入ってくる、とかいろいろ考えていたことでしょう。宿泊学習やその他の楽しみにしている行事もどうなるのか不安もあることでしょう。

3年生の皆さんは、義務教育の最終学年。勉強も部活動も行事も、最高のものをめざしていたと思います。交野の中学3年生は、後輩やご家庭の方、地域の方、そして先生に最高の姿を見せてくれる、これが交野の自慢であり誇りです。なのに、長い休みが続きました。進路も控え不安が大きいことでしょう。

申し訳ない気持ちでいっぱいです。2年生、3年生の皆さんを元気づける言葉もなかなか見つかりません。でも、学校の再開が近い今、お伝えしたいことがあります。

平成23年(2011年)3月11日、東日本大震災が起きました。震災の混乱がまだ収まっていなかった11日後の3月22日、宮城県気仙沼市の階上中学校で十日遅れの卒業式が行われました。その時の卒業生代表が読んだ答辞の一部を紹介します。

「天が与えた試練というには、おごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。時計の針は十四時四十六分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。」

この答辞を読んだ中学生は、プログラマーをめざし、災害の情報をいち早く伝えるシステムを作って、一人でも多くの人々の命を救いたいと考え高等専門学校に進学したそうです。過去を変えることはできないが未来は自分の力で変えられる、そう強く思える答辞です。

これからも、まだまだ困難なことは続くでしょう。その中でも、思いやり、感謝の心、命を慈しむ深い愛情、くじけない心など、人として持ち続けなければいけないものを見失わないようにして、力強くこれからの人生を切り開いてください。皆さんの家族や学校の先生たちは、それを応援してくれます。助けてくれます。心から願って来ています。

願わくは、将来、大人になった皆さんが自分自身を振り返った時、今、皆さんが経験していること、この経験によって「精神的に一層成長できたなあ」、そう思ってくれる瞬間があってほしい。この思いでいっぱいです。



令和2年5月25日

交野市教育委員会教育長 北田千秋